



シニアソフトボール

会場地：丹波市（旧：市島町）

競技紹介

ソフトボールは、1921年にアメリカ留学から帰国した東京高等師範学校教授の大谷武一氏によって、学校体操科の遊技として日本に紹介されました。

野球と似ているように見えますが、ルールなど細かいところでは違いがあります。野球に比べて各塁間はやや短く、投手は下手投げで、試合回数は7回です。また、ボールは野球よりやや大形の軟らかいボールを用いています。

行事では、60歳以上の方で構成されたチームを対象に実施します。高齢者の方がソフトボール競技に親しむことによって、交流と連帯の輪がさらに広がるとともに、体力の低下を防止するなどの運動効果も期待しています。

競技方法



ルールは、2006年（財）日本ソフトボール協会オフィシャルルールを採用します。

監督・選手のユニフォームは、チームとして統一されたもので、それぞれ胸と背にユニフォームナンバーを装着することとします。

試合は、トーナメント戦7回とします。ただし、試合開始より70分を経過して新しいイニングに入らないこととします。

7回もしくは70分を過ぎて同点の場合は、タイブレーカーを適用します。

【タイブレーカー】：8回の表からは前回最後に打撃を完了した選手を二塁走者とし、無死二塁の状況を設定して、打者は前回から引き続く打順の者が打席に入る。その裏も同様に継続し、勝負が決するまでこれを続けていく試合方式である。

〔用具〕

- ・ 試合球は、（財）日本ソフトボール協会検定ゴム3号球とし、管理者が準備します。
- ・ 用具、ヘルメット等は、オフィシャルルールによりますが、選手の金属製スパイクの使用は禁止します。また、ベースコーチはヘルメットを必ず着用してください。

競技場の概要

【会 場】

スポーツピアいちじま



スポーツピアいちじまの全景

人と自然に囲まれて、表情豊かな空間を演出する総合運動公園として、平成12年4月にオープンしました。

施設は、野球・ソフトボール(2面)・サッカー・陸上競技と、野外スポーツならなんでもOKのプレイスタジアムの多目的グラウンドゾーンと、全天候型多目的コート・スケート広場・親水公園・花見台のある交流広場と軽運動ゾーンで構成されています。



写真は、毎年スポーツピアいちじまで開催されている全国高等学校女子硬式野球選抜大会の風景